

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】(ユニット1)

事業所番号	2793000205		
法人名	株式会社カームネスライフ		
事業所名	グループホームここから西淡路		
所在地	大阪市東淀川区西淡路4-18-21		
自己評価作成日	平成30年4月1日	評価結果市町村受理日	平成30年5月22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター		
所在地	大阪市中央区常盤町2-1-8 FGビル大阪 4階		
訪問調査日	平成30年4月26日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

前年度は1ユニットでしたが、今年度は3ユニットが稼働し大所帯となりました。入居者が主体となった、ケアを行う事を大事にし、散歩や買い物、入所前からの嗜好品なども出来るだけ取り入れながら、楽しく生活頂けるように、取り組んでいます。毎日のご様子や体調の変化を素早く気付けるよう、日々職員と共に努力しながら、家族様との信頼関係をしっかりと築き、安心してお任せいただけるような施設づくりをしていきたいと思っています。「出来る事」「出来ない事」を見極め、各々が「出来る事」を増やし、職員と入居者がより近い距離で接する事が出来るようにしたいと思います。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所主体は(株)カームネ・スライフであり、福祉事業を関西一円に運営し、当「ここから西淡路」は平成28年5月に3階だての3ユニットを開設している。駅から近いために訪問・面会が至便である。公園、郵便局、コンビニが近隣にありホームの入居者にとっても地域住民と交流出来るスペースとなっている。ホームの良さは「個別対応が出来ること・その人の好きなことの優先して支援している」自分のお家と思って無理なく、生活できるように「その人に寄り添ったケア」を重点に職員皆で常に支援の方法を考えて取り組んでいる。この1年で地域住民・関係者とのつながりや施設内の充実・体制整備をしますとケアマネジャーと管理者が語られ、意欲的に取り組み実施している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホームの理念が職員の共通の目標として意識付けられる様に、見やすい所に掲示している。	事業所の理念をタイムカード横に掲示して常に目につくよう意識付けしている。職員会議でも「地域に根差し、地域家族とのつながりを大切に、共に寄り添い共に支え合える生活を提供していく」の実践に向けて介護や援助方法を皆で検討している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の盆踊りや、近くの他事業所で行われたお祭りや餅つきに参加し、地域の方と交流する機会が少しずつ増えた。	近所に小学校や保育所がなく交流が困難であるが、近くの事業所の誘いで祭りや行事には車で送迎して参加している。今年は開設2年目で自治会の役員となった為、更に地域活動や行事等も意欲的に交流の幅を広げる機会としている。当グループホームで秋祭りを予定している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近隣関係各所にはパンフレットを配布して、認知症の支援についてお知らせはしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族様、出席者様には施設の現状を伝えたり、地域の取り組みや予定を情報交換する場となっている。家族様からの意見は前向きに考え、なるべく早く実現につながるようにしている。	会議は2ヶ月毎の月末水曜日、10時～11時と開催日が固定されて、家族の参加や多くの参加者があり、ホームの活動やヒヤリハット・事故報告など現状報告がされている。出席者からも意見や情報交換もあり、議事録も詳細である。会議録は家族全員に郵送・面会時手渡ししている。現在知見者の参加が無いが、今後検討していく。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	必要事項の連絡や提出物は延滞なく行っている。	空床連絡や生活保護の書類など提出時何かあれば相談している。運営推進会議の議事録も地域包括センターに直接持参して、顔なじみの関係作りを行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	教育研修等で学び、身体拘束はもちろん、言葉による行動制限をしない様に努力している。マニュアルは常に確認している。	ホームの直ぐ前が車道である為、玄関口はロックしている。1階から3階までのエレベーターは自由に使用でき、利用者同士の行き来でき、交流されている。内部研修も実施し、身体拘束による弊害を職員は理解してスピーチロックと感ずる対応は互いに声かけしている。外部講師による全体のグループホーム研修も参加し「身体拘束をしないケア」の実践に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	実践できている。スタッフのストレスが蓄積しないように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今後の必要性を考え学ぶ機会を持ちたいと思っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前には面談し十分な説明を行っている。また改定などは運営推進会議で説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や運営推進会議で家族様のご要望や意見を聞いており、ご意向に沿えるよう検討している。	面会が多い。その都度意見や情報交換を行い、家族の要望で個人的に対応している。グループホーム全体の「ここから新聞」に活動報告を載せている。アンケートや直接に意見を尊重・傾聴しながら、事業所理念に近づける様な努力・姿勢が見られる。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々の申し送りや連絡ノート、月1回の「職員会議を通して、職員の言いやすい環境を作る様心掛けている。	職員会議を月1回行いフロアの業務・ケア会議を実施している。ノートの活用(職員連絡・利用者個人)しているが、職員聞き取り調査からは、散歩や声かけの工夫、ケアの方法など利用者にとどのような対応ができるか親身な意見が多く聞かれた。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個人面談を行い、日頃のコミュニケーションを大切に努めている。人事考課での個人面談も行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の研修は積極的に参加し、管理者やケアマネが講師となり勉強会を開いて、意欲の向上につなげている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内のケアマネ会議や館長会議での交流はあり、地域のディサービス等のお祭りに参加して情報を交換している。 3ヶ月に1回グループホームの連絡会が行われている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	相談時に家族と本人に面談し、意向や要望等のアセスメントを行って安心の確保に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談時に家族が困っている事や不安、または要望を聞き、関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人家族との面談や職員からの情報を元に、必要としている支援を見極めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事を共に行い、散歩や買い物等外出する機会を持ち信頼関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や電話などで本人様の状態を伝えたり、相談するようにしている。外泊や外出等要望があれば日程等の調整をしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今までご近所付き合いをしていた方が面会に来られたり、手紙の交換などを行って、関係を継続している。	地元の入居者が殆どであり、近所の方の面会がある。昨年まではGPSを付けて畑まで野菜作りに行っていた利用者もいた。手紙やハガキを交換している方は、職員と近所の郵便局まで一緒に出かけている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う入居者同士での席の配置や、レクリエーション行事を通して支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院されご逝去された入居者様の家族様に、思い出のアルバムを作成しお渡ししたりしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎日の関わりの中で、不満等を含め聞き漏らさず、本人様の意向に添えるよう検討し職員間で話し合い、把握できるよう努めている。	本人の出来ることや希望など聴き、その意向に添った支援をしている。毎日買い物に行きたい人は近くのコンビニまで一緒に行く。また、お酒が飲みたい人は家族と相談し、昼食・夕食時にビールや焼酎など陶器の容器で目立たない様に、自宅に居る時と同じ様に嗜好品を楽しむことが出来る支援をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族からの話を聞いて、安心して今まで通りの生活ができるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	各職員が様子を観察し気付いた点を話し合い、本人様が今できる力を常に把握するように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人家族様の意向に添えるようにスタッフ間で実践に向けての意見交換や必要に応じて医療機関に相談しケアプランを作成している。	介護計画書は入所時は1ヶ月、最長6ヶ月、月1回のモニタリングは居宅担当者が実施している。心身の状態変化時は担当ケアマネジャーが中心になり、関係者を招集して担当者会議を開き介護計画書の見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活面や表情や言葉の意味にも目を向ける様に記録に残している。知り得た情報や、気付いた事があれば話し合いをし情報を共有するようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々ニーズに添って、家族や職員で話し合い、医療機関などにも相談し支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	スーパーやコンビニに買い物に出掛けたり、公園に散歩や町内会のお祭りに行ったりと、地域資源を活用し安全安心な暮らしを送れるように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	普段の状態を記録把握し、往診受診時に報告できるようにしている。何かあればクリニックに相談対応している。	従来のかかりつけ医を優先しているが、現在は東三国の「ファミリークリニックあい」利用の入居者が多い。医師の往診は月2回あり訪問看護師も週3回勤務している。重度化時の対応も相談できる。医誠会病院が協力医療機関となっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週健康チェックを行っている。小さな変化でも看護師に報告し確認、情報を共有している。相談、対応法、助言を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入退院時は、入院先の医療機関・かかりつけ医とも情報を交換している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化の指針は入居時に家族様に説明を行っている。心不全や急変を起こしうる入居者様の症状や注意点等医療機関より説明を受け、その時々に対応法を職員間で共有し、家族様にもその都度報告している。ターミナルケアについての勉強会も行っている。	入居時に重度化した場合や終末期の対応について、重要説明書に基づいて口頭で家族に説明している。その状況・時期には医師から家族説明と同意書が交わされ管理者が同席している。看取り指針があり、内部研修や外部研修も実施し「その人にとってどのようにすれば一番良いのか」ご本人・家族と話し合い、今後必要となってくる「看取り」支援について事業所で対応出来るケアを整備中である。	重度化した場合の対応のあり方は本人家族にとって重要で不安な要素である。ケアの対応力に変化が生じる事を把握して「事業所でどこまで支援が出来るかの見極め」が必要となる。関係機関との連携・支援方法や看取りマニュアル・手順書等の更なる整備と文章化を行い、体制を整えられる事を期待する。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアル等を常に確認し予想される症状別の対応法等も把握するよう心掛けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災マニュアルなどを作成し、定期的に避難訓練をおこなっている。運営推進会議で避難場所の確認も行っている。	防災マニュアルに基づき、年2回定期的に火災・地震等の避難の訓練を実施。伊賀森公園へ避難や夜間を想定した訓練で会議時には参加者と共に避難場所の確認をしている。IH調理器具は業者による漏電チェックを定期的に受けている。備蓄も完備している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者1人1人の性格や生活歴を尊重し接するように対応している。	一人ひとりの状況を十分に把握してその人に良いと思える支援、介助の方法を皆で考えて行っている。プライドやプライバシーを傷つけない、声かけや呼び方に配慮して接している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	普段の何気ない会話の中からも、本人様の思いを引き出せるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員のペースではなく、個人個人のペースを守りながら、過ごせるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自分の好みの洋服を選んでいただき身だしなみを整えたり、衣類の洗濯は職員と一緒にしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の盛り付けや片付け、準備できる方には食材を切ってもらうなど職員と一緒にしている。	季節行事や月1回食事レクリエーションを行い喜ばれている「手巻き寿司・にぎり寿司・お好み焼き」など。おやつレクもパフェなど人気で、気候の良い時はホーム前の庭先でおやつタイムもある。手伝いが出来る人は盛り付け・食材準備や片付けを職員の見守りでしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々に合った食事量や形態、好みを把握し、提供している。水分制限の方は、注意しながら支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアの声掛けを行って、1人1人必要に応じて支援をしている。週に1回は歯科往診を実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握し、周囲に配慮しながら声掛けを行って、トイレでの排泄支援をしている。	個々の排泄パターンを把握して気持ち良く排泄でき、脚力維持の為にトイレでの排泄援助をしている。布パンツの人も半数居るが失敗されても、声かけの配慮と工夫を以て清潔に気持ち良く過ごせる排泄支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日々の生活の中で体操や散歩で体を動かしたり、水分量や乳製品の摂取にも配慮している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	1人1人の希望や気分に配慮しながら、気持ちよく入浴してもらえるように心掛けている。体調や気分がすぐれない時は、翌日に入ってもらったり等工夫している。	基本週3回の入浴が出来て、午前・午後と自由に利用できる。今までの生活習慣を重視して夕方以降入浴する方、好みの洗剤を使用される方もいて柔軟に個別対応している。入浴剤は使用せず、ゆず湯やしょうぶ湯など季節感を取り入れている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	1人1人の生活リズムの中で、状況に応じ休息したり安眠できるよう支援している。就寝時間等は決めることなく本人様のペースで就寝頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々で服用している薬のファイルを作って、目的や副作用・用法・用量の把握を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常生活での張り合いや喜びは様々で、食事準備や体を動かす事、買い物・散歩と各々に合った支援を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	スーパーへの買い物や、コンビニまでおやつ等の買い物に出る事、郵便局まで行き手紙を出す等本人の希望に添って支援している。	毎朝玄関・駐車場を掃除する人、一日3回外出したい人、自分のおやつを買いに行きたい人、車椅子で須賀森公園に散歩行くなどそれぞれの思い希望に添った支援をしている。出来ることの持続支援や外気浴を兼ねて洗濯物干し、花の水やり、布団干しなど一緒に行っている。現在3ユニットになり全員揃っての遠出外出は困難であるが、今後の課題でもある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	職員は本人がお金を持つことの大切さは理解しており、本人の希望や力に応じて自己管理をしてもらっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や大切な人への電話は、掛けたり取り次いだり支援し、自己管理できる方は携帯を持参されている。届いた手紙はやり取りできるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は不快や混乱を招かぬよう配慮し、季節感のある飾り付けで工夫している。清掃し清潔な状態を維持できるように配慮している。	リビングルームや廊下には季節の壁画(淡いピンクで桜の切り絵が白壁に上品にシンプル)や作品が飾られ、食堂のテーブルには小瓶にツツジが生けられて和める雰囲気である。窓の換気で風が通り爽やかで、ベランダも広く、周囲の風景も眺められる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間では気の合う利用者同士で思い思いに過ごせるようソファを設置している。自由にフロアーを移動して頂き他者と会話をしたりと思い思いに過ごされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が自宅で使っていた家具やベッド等家族と相談しながら、馴染みのあるものを持って来て頂き、居心地よく安心できる空間作りを心掛けている。	クローゼットとエアコンはホームで設置しているが、他は使い慣れたタンスを配置し、家族の写真、手作り作品などが飾られて、その人らしい居室に整えられていた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部は1人1人の「できること」「わかること」を活かし居室に表札、風呂場では衣類の着脱、洗身、洗髪、安全で且つ自立に近い生活を支援している。		